

■本木昌造 オランダ通詞、洋学者。日本の活版印刷創始し、本木活字による初の邦字新聞発行で印刷界も先駆した。

もときしょうぞう

シボウ本鳴滝塾1824= 長崎新大工町で、北島三弥太の四男に生まれる。

シボウ本事件・1828= 4歳：

天保大飢饉始1833= 9歳：

高島砲術・・1834=10歳：_母の実家のオランダ通詞本木昌左衛門の養子となり、
滑稽+人情本 1835=11歳：稽古通詞から、

大塩平八郎乱1837=13歳：

勸進帳初演・1840=16歳：_小通詞末席に進み、

天保改革弾圧1842=18歳：

天保改革終・1844=20歳：_オランダの美しい印刷に魅せられ、仲間と出版事業を起こすことを思い立ち、
*資金を集めて印刷機械1組と活字一式を注文。オランダ国王の国書を携えて来日したコウブスの通訳に成果を上げて、褒美を賜る。

阿部正弘首座1845=21歳：

孝明天皇・・1846=22歳：小通詞並、

_先に活字のみ到着して試みるうち、活字製造に着目するようになる。

尊徳報徳論・1851=27歳：*印刷機械は7年目によく到着したが、幕府が將軍への献上品扱いとして、長崎奉行所内に活版摺立所を創設、所内で、自著「蘭和通弁」を輸入印刷機・自製の鉛活字により印刷。

ペリー来航・1853=29歳：_小通詞に昇り、ロシア艦隊プチャーチン提督の通訳に抜群の功を示して、銀10枚下賜され、

開国開港・・1854=30歳：_長崎奉行の命で、伊豆の戸田に移り、老中阿部正弘に委任され、幕府とロシア艦建造中のプチャーチンとの間の談判に当り、条約締結に寄与。

また、_幕府の長崎海軍伝習所通訳として航海術などを習得、出版活動もつづけ、

桜田門外変・1860=36歳：長崎飽ノ浦製鉄所御用掛、

生麦事件・・1862=38歳：「秘事新書」を著述、

ついで主任、_頭取となり、技術者養成、海運、鉄製長崎大橋架設などに貢献。

禁門の変・・1864=40歳：長崎奉行の命で、ビクトリア号の船長として、江戸から大坂に航海した際、大暴雨風に遭遇し、転覆しそうになるのを何とか凌ぎ、八丈島に漂着、九死に一生を得る。

大政奉還・・1867=43歳：長崎で洪水が起こり、橋敷基が流されると、製鉄所に注文して、鉄橋を架ける。

明治維新・・1868=44歳：「秘事新書」を刊行。_本木活字による初の邦字新聞{崎陽雜報}を発行、

戊辰戦争終・1869=45歳：*上海からアメリカ人技師W・ガンブルを迎え、製鉄所内に活版伝習所を設け、金属活字の鑄造に成功、

初の日刊新聞1870=46歳：_海軍伝習所頭取を辞し、長崎新町に活版所{崎陽新塾}を創設したが、

廃藩置県・・1871=47歳：*漢字の数が膨大なことと“武士の商法”で経営危機に陥り、以後、門下の平野富二に経営を委ね、

学問のすすめ1872=48歳：平野が東京築地活版製造所を開設する一方、新聞・雑誌の発行が盛んになって社業は安定に向かい、

明治6年政変 1873=49歳：

陽其二らとともにいわゆる明朝活字の合理的なシステムを開き、近代印刷技術の基礎を築いて、

初の民間工場1875=51歳：_没した。